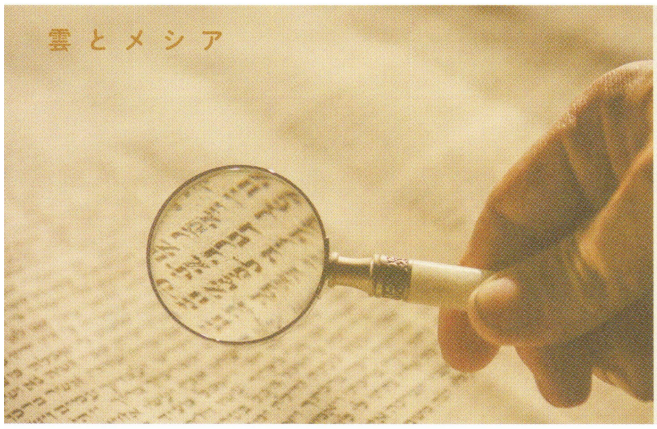

聖書Q&A

Q ダニエル書7章13節に書かれている人の子の到来は、キリストの再臨のことでしょうか。

A 一部の注解者は、新約聖書記者がダニエル書7章13節について再臨を指すと理解していると解釈しますが、それは、いずれの場合も人の子が雲に乗って来られるからです。どのような結論を出すにせよ、その前に聖書の証拠を検証する必要があります。

ダニエル書7章13節における人の子の到来

ダニエルは幻の中で、人間を超えたお方という意味で人の子のようなお方、つまりメシアが雲に乗って来られるのを見ました。人の子は、ある場所から、「日の老いたる者」がおられる天の至聖所に、水平的に移動しておられます。すなわち、小さな角が1260日（西暦538年～1798年）にわたって神の民を苦しめた後に行われる裁きの席に、神と共に着かれるのです。天の書物の記録に基づいて法的な判断が下されます。裁きの終わりに、人の子は権威、威光、王権を受けます。

明らかなことは、ダニエルが幻の中で、預言的カレンダーの特定の瞬間に天で起こることを見て、私たちのために書き表していることです。

新約聖書における人の子の到来

「人の子が雲に乗って来る」や類似の語句が出てくる新約聖書の箇所（マタイによる福音書24章30節など）を調べると、次のことがわかります。

すなわち、「彼を突き刺した者ども」（ヨハネの黙示録１章７節）さえ含め、人の子はすべての人々から見られています。彼は天から雲に乗って、地上に向かって垂直方向に来られます（テサロニケの信徒への手紙一・4章16、17節参照）。聖書はキリストの再臨を描写しており、人の子はご自分の民を集め、敵を滅ぼすために来られます（マルコによる福音書13章26節）。人の子は偉大な力と栄光を帯びて来られるのであり（ルカによる福音書21章27節）、それらを受けるために来られるのではありません。

新約聖書では、預言者だけでなく、地上のすべての人々に見える形で起こる出来事について描写していることは明白です。

証拠を比較する

上記で挙げられた情報を見極めれば、私たちは2つの別々の預言的出来事を扱ってはいるものの、相互に関連しているという結論に至ることは避けられません。それらは、天での出来事が、その後、再臨という形で地上に起こるという意味で時系列的につながっているのです。

1260日の預言的な日々の後に人の子が権威、威光、王権を受けられることに注目してください。今度はキリストの再臨において、天でキリストに授けられたものが人の目にも見えるようになります。これは二重預言ではなく、2つの預言がそれぞれ別の瞬間に成就したことを意味しています。ダニエル書にある「雲に乗って来る人の子」という言い回しは、新約聖書では少なくともある特定の目的のために引用されています。それは、ダニエル書の中で王として統治する権利を得た、人間的でありながらそれ以上の存在であるメシアとイエス・キリストを同一視するということです。この引喩は、神のメシアとしてイエス・キリストが神聖な任命を受けたことを正当化しています。

アンヘル・M・ロドリゲス
（神学博士、元世界総会聖書研究所所長）

＊本稿は、『アドベンチスト・ワールド』2023年1月号に掲載された‘Bible Questions Answered — Clouds and the Messiah’の抄訳です。